

# 神戸市少年団登山教室山行（4月20日）報告

2024. 4. 22

## 1. 参加者

教室生参加者 28名  
引率者 岳連理事5名 教員ボランティア1名  
大学生ボランティア2名

## 2. 記録

天気 晴れ後曇り

9時 JR 塩屋駅南口前 教室生 集合

塩屋駅東側の山道に登る  
須磨浦山上遊園地で休憩

10時20分 旗振山

ヤマモモやウバメガシの木々などが茂る山道に行く

10時34分 鉄誘山

鉄拐山頂で地図読み

11時 高倉山（おらが茶屋）

「おらが茶屋」でトイレ休憩  
高倉台団地でトイレ休憩と文太郎道に登る際の  
注意をする  
砂混じりの岩が露出する文太郎道に登る

12時 梶尾山

山頂の展望台から少し外れた木々の下で昼食休憩  
木々が茂るや山道に行く

13時 横尾山

岩が露出した「馬の背」に行く

13時30分 東山

東山の休憩時に地図読み  
板宿八幡神社で今回の山行のまとめの会合を持つ

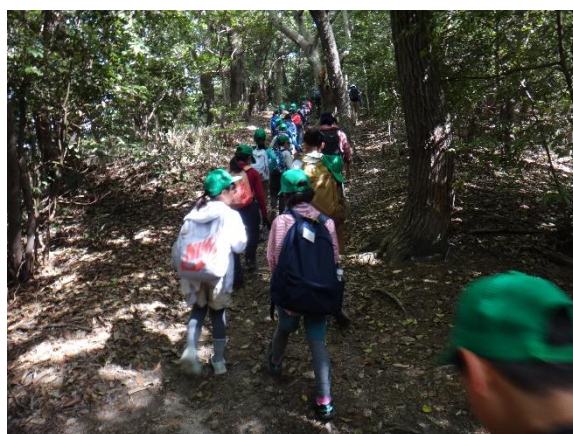
15時 神戸地下鉄板宿駅改札口 解散

## 3. 準備物

名札・地図（国土地理院地図をダウンロードしたもの）

## 4. 活動内容と感想

日差しもあり雨の心配をしないで済んだのは嬉しかった。今年度最初の少年団登山教室山行。午前9時に教室生28名がJR塩屋駅前に集まった。保護者も多く集まった。最初の山行なので配った地図の説明や歩き方、汗冷えを避けるための衣服の調節などしっかり説明をする。午前9時20分にJR塩屋駅を出発。家々の間を通り急な



階段を経て木々が茂る山道に入る。眺望は効かないが緑の中を歩くのは気持ちがいい。そうするうちに須磨浦山上遊園地に到着。ここで休憩をとる。今日の山行コースは少し短いの  
で時間は十分にある。今年度初めての山行なので教室生の様子も  
みたい。この山上遊園地の広場にはほぼ我々だけだった。まだ登り始  
めたばかりなので子供達も元気。パラボラ通話機や伝声管の遊具な  
どで遊んだりしてみんな思い思いに遊んでいた。ここから須磨の海  
岸やその先の海がはっきり見える。西側に明石大橋も大きく見え  
る。見晴らしが素晴らしい。しっかり休んで出発。暫くして旗振り  
茶屋に到着。大阪堂島の米相場の連絡するための旗を振った旗振山  
の由来を説明する。また歩き出す。ヤマモモやウバメガシなどの  
木々の下に行く。木々の根の張った山道を登って鉄拐山に到着。木  
々が刈られているせいか眺望がすばらしい。地図とコンパスをだ  
して地図読みの練習をする。地図の磁北線とコンパスの磁針を合  
わせる整置を学ぶ。ここは鉄拐山山頂。この場所から見える周り  
の山や建物などが地図上でどのように示されているかを調べた。ま  
ずは地図に馴染むことだ。地図読みを終えてまた歩き出す。しっ  
かり整備された道を暫く進んで「おらが茶屋」に到着。トイレ休  
憩をとる。水分補給もする。休憩の後、高倉台団地に下りる。この  
先にある文太郎道は砂混じりの岩が露出した急な山道。滑らない  
ように足をしっかり置いて歩を進める、両手はあけておく、軍手  
をするなどの注意をして出発。旧全山縦走路である文太郎道を  
みんなで注意しながら登る。ペースはいい。ずっと岩がでた急な登  
りが続くので少し疲れが見える教室生も出てくる。でも頑張って  
登る。12時前に尾根筋の登山道にでた。よく頑張った。梅尾山頂  
上は人が多かったので少し離れた木々の下で昼食休憩。楽しみに  
していた弁当タイム。卵焼きが入ったお弁当やおにぎり、いっぱい  
入った唐揚げ弁当など思い思いの昼食を広げての楽しい時間とな  
った。昼食休憩の後は「馬の背」に行く際の注意をする。ここでも  
砂交じり岩がでた登山道や鎖のある下りの岩場があるので慎重に  
進むように注意する。岩場の登山道を下って岩稜の「馬の背」を  
進む。右手には西神戸の街並みと海岸がすぐ近くに見える。足元  
を見ながら注意して進み無事通過した。その後、東山の山頂で暫  
く時間を取り再び地図読みをする。東山は地図には載っていない。  
コンパスと左手に見える横尾山を確認して現在地を地図上のどこ  
にあるかを調べてもらう。なかなか分からないようで苦戦してい  
る。地図読みは難しく一朝一夕にはできない。この1年間の登山  
教室で学んでもらおうと思っている。地図読みの後、下山開始。  
板宿神社で今日のまとめの会合を持った後、午後3時に地下鉄板  
宿駅に到着。保護者の方も多く来られていた。みんなで挨拶した  
後解散した。

今年度最初の登山教室山行で連続参加者もいるがほとんどが一  
緒に活動するのは初めての教室生ばかり。どのような子供達なの  
かよく見ようということになった。今回のコースは時間的に余裕  
もありしっかりとった休憩時間でこの登山教室で伝えたいことを  
その都度伝えることに心がけた。また山という自然の中でそれぞ  
れ自分の五感を全開していろんな事を感じてほしい。そこで得た  
事は自分の宝になる。

